

令和元年度和歌山県計画に関する 事後評価

令和7年1月
和歌山県

3. 事業の実施状況

令和元年度和歌山県計画に規定した事業について、令和5年度終了時における事業の実施状況について記載。

事業の区分	II. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.4（医療分）】 地域包括ケアシステムを支える訪問看護研修及びマネジメント研修	【総事業費】 1,238 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮	
事業の実施主体	和歌山県看護協会（委託）	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	増加が見込まれる在宅患者や、多様化する在宅医療のニーズに対応するため、適切な医療サービスが提供できる看護職員の確保が必要。	
	アウトカム指標：研修受講者数 ・訪問看護入門研修 20 人／年 ・地域包括ケアシステムマネジメント研修 10 人／年	
事業の内容（当初計画）	・看護師に対する訪問看護入門研修の実施 ・保健師に対する地域包括ケアシステムマネジメント研修の実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	・訪問看護入門研修 1 回／年 ・地域包括ケアシステムマネジメント研修 1 回／年	
アウトプット指標（達成値）	・訪問看護入門研修 1 回開催（2.5 日間） ・地域包括ケアシステムマネジメント研修 1 回開催（4 日間）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・訪問看護入門研修受講者 18 人（R1）、12 人（R3）、10 人（R4）、12 人（R5） ・地域包括ケアシステムマネジメント研修受講 7 人（R1）、3 人（R3）、7 人（R4）、8 人（R5）	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>訪問看護入門研修は、実習を演習に変更し実施することで、訪問看護活動における基礎的知識・技術の理解により、在宅療養支援に係る看護人材の資質向上が図られた。</p> <p>地域包括ケアシステムマネジメント研修では、参加者が自組織において取り組むべき課題を明確化できた。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>事業委託先を研修施設を有する団体とすることで、会場確保に要する経費を抑えることができた。</p>	
その他		

(事業区分5：介護従事者の確保に関する事業)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 1】 介護人材マッチング機能強化事業（参入促進）	【総事業費】 4,644 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県（県社会福祉協議会へ委託）	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：令和 8 年度末における介護職員需給差（395 人）の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容（当初計画）	地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進のために、学校訪問や福祉の仕事出張講座、その他広報啓発を実施。	
アウトプット指標（当初の目標値）	学校訪問件数 210 校 福祉の仕事出張講座開催数 20 校 学生向けパンフレット 12,000 部配布	
アウトプット指標（達成値）	＜令和元年度、令和 2 年度、令和 3 年度＞ 事業費未執行のため実績なし ＜令和 4 年度＞ 学校訪問件数 102 校 福祉の仕事出張講座開催回数 28 回 学生向パンフレット 10,000 部配布 ＜令和 5 年度＞ 学校訪問件数 79 校 福祉の仕事出張講座開催回数 42 回 学生向パンフレット 8,000 部配布	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員 150 人増加の目標に対し年平均 551 人増加した。 ＜参考＞ 令和 5 年度介護サービス従事者数（推測値）24,641 人（年平均 551 人増加） （1）事業の有効性 地域住民や学校の生徒に対して、啓発等を通じて介護や介	

	<p>護の仕事について理解してもらうことで、求職者増に繋が り、介護職員 150 人増加の目標に対し 551 人が増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介 護人材を確保することが期待できる。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県 福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事 業が実施できた。</p>
その他	<p><令和元年度> 平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度 積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度> 平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度 積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度> 平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行った ため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度> 平成 30 年度及び令和元年度積立分を一体的に活用し事業を 行った。</p> <p><令和 5 年度> 令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.2】 介護人材マッチング機能強化事業（職場体験）	【総事業費】 1,834 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県（県社会福祉協議会へ委託）	
事業の期間	平成31年4月1日～令和7年3月31日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：令和8年度末における介護職員需給差(395人)の縮小に向け、介護職員150人を増加する。	
事業の内容（当初計画）	若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした福祉・介護の職場体験の機会を提供	
アウトプット指標（当初の目標値）	職場体験受入人数 80人 うち福祉分野への就職者数 25人	
アウトプット指標（達成値）	＜令和元年度、令和2年度、令和3年度＞ 事業費未執行のため実績なし ＜令和4年度＞ 職場体験受入人数 43人 うち福祉分野への就職者数 11人 ＜令和5年度＞ 職場体験受入人数 95人 うち福祉分野への就職者数 10人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 介護職員150人増加の目標に対し年平均551人増加した。 ＜参考＞ 令和5年度介護サービス従事者数（推測値）24,641人（年平均551人増加） （1）事業の有効性 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした福祉・介護の職場体験の機会を提供することで、介護職場への就職を促進することができ介護職員150人増加の目標に対し551人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。 （2）事業の効率性	

	<p>社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。</p> <p>また、受入事業所と、連絡を密にして体験希望者を受入れることで、事業を効率的に行うことができた。</p>
その他	<p><令和元年度> 平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度、令和 3 年度> 平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度> 平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p> <p><令和 5 年度> 平成 30 年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 3】 介護人材確保対策事業	【総事業費】 11,743 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標:令和 8 年度末における介護職員需給差(395 人)の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容 (当初計画)	県内の高等学校の学生を対象に、介護に関する基礎的な知識と技術を習得する機会を提供。 施設・事業所関連の団体等及び高等学校と連携し、就職を希望する高校生に対し、介護資格(介護職員初任者研修課程)取得を支援。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	資格取得者数 高校生 150 人	
アウトプット指標 (達成値)	<令和元年度～令和 5 年度> 事業費未執行のため実績なし	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 事業費未執行のため実績がなく、観察できなかった。 <参考> 令和 5 年度介護サービス従事者数 (推測値) 24,641 人 (年平均 551 人増加) (1) 事業の有効性 平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行であるが、就職を希望する県内の高等学校の生徒や、介護現場へ新規参入した介護に関する資格を持たない者を対象に初任者研修を修了する機会を創出することにより、人材の介護現場へ新規参入と定着を促進することができ、介護職員 150 人増加の目標に対し 551 人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。 (2) 事業の効率性 指定研修事業者と高等学校・介護事業所法人が連携して初	

	<p>任者研修を行うことで、研修の実施を効率的にすることができた。</p>
<p>その他</p>	<p><令和元年度> 平成 27 年度及び平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度> 平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度> 平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度～令和 5 年度> 平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 4】 中高年齢者マッチング事業	【総事業費】 2,129 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県（県社会福祉協議会・県介護普及センターへ委託）	
事業の期間	平成31年4月1日～令和7年3月31日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：令和8年度末における介護職員需給差(395人)の縮小に向け、介護職員150人を増加する。	
事業の内容（当初計画）	介護未経験の中高年齢者等が地域の介護職場で就労の際に求められる最低限度の知識・技術等を学ぶことができる研修会を実施するとともに、研修受講者の就労までのマッチングを行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修会への参加者数 50人 参加者のうち介護分野への就職者数	10人
アウトプット指標（達成値）	<令和元年度、令和2年度> 事業費未執行のため実績なし <令和3年度> 研修会への参加者数 25人 参加者のうち介護分野への就職者数 6人 <令和4年度> 研修会への参加者数 58人 参加者のうち介護分野への就職者数 7人 <令和5年度> 研修会への参加者数 25人 参加者のうち介護分野への就職者数 5人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 介護職員150人増加の目標に対し年平均551人増加した。 <参考> 令和5年度介護サービス従事者数（推測値）24,641人（年平均551人増加） （1）事業の有効性 介護未経験の求職者が研修会及び就職相談会へ参加できる機会を設け、就労までのマッチングをすることにより介護従事者の増加を図り、介護職員150人増加の目標に対し551人増加した。	

	<p>そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>社会福祉法第93条第1項に基づき指定している和歌山県福祉人材センター及び介護分野における様々な研修実績のある県介護普及センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。</p>
その他	<p><令和元年度、令和2年度> 平成29年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和3年度> 平成30年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和4年度> 平成30年度及び令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p> <p><令和5年度> 令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 5】 福祉・介護人材マッチング機能強化事業 (人材マッチング)	【総事業費】 26,588 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県（県社会福祉協議会へ委託）	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標:令和 8 年度末における介護職員需給差(395 人)の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容（当初計画）	和歌山県福祉人材センターに専門員を配置し、合同就職説明会の開催や求人情報の提供等を実施（大規模 5 回、小規模 8 回） 介護事業所実態調査の実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	合同就職説明会 来場者数 500 人（大規模 350 人、小規模 150 人） 就職者数 50 人（大規模 35 人、小規模 15 人）	
アウトプット指標（達成値）	＜令和元年度、令和 2 年度、令和 3 年度＞ 事業費未執行のため実績なし ＜令和 4 年度＞ 合同就職説明会 来場者数 321 人（大規模 248 人、小規模 73 人） 就職者数 35 人（大規模 28 人、小規模 7 人（再掲）） ＜令和 5 年度＞ 合同就職説明会 来場者数 254 人（大規模 229 人、小規模 25 人） 就職者数 22 人（大規模 17 人、小規模 5 人（再掲））	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員 150 人増加の目標に対し年平均 551 人増加した。 ＜参考＞ 令和 5 年度介護サービス従事者数（推測値）24,641 人（年平均 551 人増加） （1）事業の有効性 キャリア専門員を配置し、きめ細やかな支援を行うとともに、介護事業所と求職者の面談の場を提供することで、より多くの介護人材を確保することができ、介護職員 300 人増	

	<p>加の目標に対し 668 人増加した。</p> <p>そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。</p> <p>また、合同就職説明会を開催することによって、学生や求職者等の情報交換・面接等がより効果的に実施できる。合同就職説明会の開催方法については、開催場所等についてより効果的な実施方法を検討していく必要がある。</p>
その他	<p><令和元年度></p> <p>平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度></p> <p>平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度></p> <p>平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度></p> <p>平成 30 年度及び令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p> <p><令和 5 年度></p> <p>令和元年度、令和 2 年度及び令和 3 年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 6】 福祉・介護人材マッチング機能強化事業 (キャリアアップ)	【総事業費】 485 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県 (県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標:令和 8 年度末における介護職員需給差(395 人)の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容 (当初計画)	国家資格取得等のための勉強会を開催 (年 43 回) (介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員など)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	参加者のべ 600 人 (43 回開催) 国家資格取得者数 20 人	
アウトプット指標 (達成値)	<令和元年度、令和 2 年度、令和 3 年度> 事業費未執行のため実績なし <令和 4 年度> 国家資格取得者数 11 人 <令和 5 年度> 国家資格取得者数 11 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員 150 人増加の目標に対し年平均 551 人増加した。 <参考> 令和 5 年度介護サービス従事者数 (推測値) 24,641 人 (年平均 551 人増加) (1) 事業の有効性 国家資格取得を支援することにより介護人材の質の確保を図り、また、資格取得により介護事業所における当該職員の処遇改善等につなげることで、介護人材の定着を図ることができ、介護職員 150 人増加の目標に対し 551 人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。 (2) 事業の効率性 社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。	

<p>その他</p>	<p><令和元年度> 平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度> 平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度> 平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度> 平成 30 年度及び令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p> <p><令和 5 年度> 令和元年度及び令和 2 年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>
------------	---

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.7】 介護人材キャリアアップ研修事業	【総事業費】 4040 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県（県介護普及センター、県介護支援専門員協会等へ委託）	
事業の期間	平成31年4月1日～令和7年3月31日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：令和8年度末における介護職員需給差(395人)の縮小に向け、介護職員150人を増加する。	
事業の内容（当初計画）	<p>①介護職員等がたんの吸引等の医療的ケアを、施設等において提供するため、適切にたんの吸引等を行うことができるよう養成</p> <p>②介護職員等がたんの吸引等を実施するために必要な研修における指導者養成及び資質の向上を図るための研修を実施</p> <p>③新任職員及び中堅職員に対して必要となる知識を習得させる研修及びサービス提供責任者など介護サービス従事者を対象に必要な知識と技術を修得させる研修を実施</p> <p>④介護支援専門員資質向上研修の講師・ファシリテーターに対しファシリテーション研修を実施するとともに、研修向上委員会を開催し、介護支援専門員法定研修の質の向上を図る。</p> <p>⑤特別養護老人ホーム等の介護保険施設の職員に対して、歯科専門職（歯科医師・歯科衛生士）が歯科口腔保健の重要性や口腔ケアの手技等の研修を行う。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>① 喀痰吸引等研修による認定特定行為従事者の養成 130人</p> <p>② 喀痰吸引等研修における指導者の養成 30人</p> <p>③ 新任職員研修 20人 中堅職員研修 30人 介護職員テーマ別研修 240人 サービス提供責任者研修 90人</p> <p>④ 介護支援専門員ファシリテーター研修 50人 介護支援専門員研修向上委員会 1回</p> <p>⑤ 研修受講者数 20人</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p><令和元年度、令和2年度、令和3年度> 事業費未執行のため実績なし</p> <p><令和4年度></p> <p>① 喀痰吸引等研修における指導者の養成 24人</p>	

	<p>② 新任職員研修 5人 中堅職員研修 7人 介護職員テーマ別研修 35人 サービス提供責任者研修 67人</p> <p>③ 介護支援専門員ファシリテーター研修 38人 ＜令和5年度＞</p> <p>① 喀痰吸引等研修における指導者の養成 26人</p> <p>② 新任職員研修 9人 中堅職員研修 5人 介護職員テーマ別研修 49人 サービス提供責任者研修 62人</p> <p>③ 介護支援専門員ファシリテーター研修 事業見直しにより、廃止。</p>
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 介護職員150人増加の目標に対し年平均551人増加した。 ＜参考＞ 令和5年度介護サービス従事者数（推測値）24,641人（年平均551人増加）</p> <p>（1）事業の有効性 喀痰吸引等を安全に提供することができる介護職員の養成や、高齢者介護のチームづくり及び地域組織づくりリーダーの養成、介護支援専門員の専門性の向上等介護従事者の資質の向上を図ることで、介護職員150人増加の目標に対し551人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。</p> <p>（2）事業の効率性 県内複数箇所で開催することで、喀痰吸引等を安全に提供することができる介護職員の養成を効果的に実施できた。特に、演習において、指導看護師と介護職員が一緒に喀痰吸引等の手技の確認をすることで、より効果的な研修になっている。 また、介護職員の経験に合わせた階層別研修や、介護職員が日々の業務において直面する問題を取り扱ったテーマ別研修などでは、受講者ごとに必要な研修を行うことで、介護職員の資質向上を効率的に行うことができた。</p>
その他	<p>＜令和元年度＞ 平成27年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度</p>

	<p>積立分は未執行 ＜令和2年度＞ 平成29年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行 ＜令和3年度＞ 平成29年度及び平成30年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行 ＜令和4年度＞ 平成29年度、平成30年度及び令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。 ＜令和5年度＞ 令和元年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>
--	---

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.8】 福祉・介護人材マッチング機能強化事業 (潜在的有資格者の再就業促進)	【総事業費】 1,688 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県 (県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標:令和 8 年度末における介護職員需給差(395 人)の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容 (当初計画)	潜在的有資格者に対する情報提供、研修などを実施 情報提供回数 年 4 回 研修実施回数 3 回	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修参加者 70 人 再就職者数 20 人	
アウトプット指標 (達成値)	<令和元年度～令和 5 年度> 事業費未執行のため実績なし	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 事業費未執行のため実績がなく、観察できなかった。 <参考> 令和 5 年度介護サービス従事者数 (推測値) 24,641 人 (年平均 551 人増加) (1) 事業の有効性 離職した介護人材へ情報提供や、復職希望者を職場体験等へ誘導することで、介護事業所は即戦力を確保することができ、また、離職者はよりきめ細やかな介護事業所の情報を得ることができるため、介護人材の確保につながり、介護職員 150 人増加の目標に対し 551 人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。 (2) 事業の効率性 社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。	
その他	<令和元年度>	

	<p>平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度></p> <p>平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度></p> <p>平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度></p> <p>平成 29 年度及び平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 5 年度></p> <p>平成 30 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p>
--	---

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 9】 認知症地域支援人材育成研修事業	【総事業費】 6,840 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県	
事業の期間	平成31年4月1日～令和7年3月31日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標： ① 認知症診療に習熟し、かかりつけ医への助言その他の支援、医療従事者に対して、地域包括支援センターとの連携役の養成や、認知症の疑いがある人に早期に気づき、早期に専門的なケアにつなげる等医療現場において適切な対応ができる体制を整備・充実 ② 高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者について、適切な認知症介護に関する知識・技術の修得・充実を図る。	
事業の内容（当初計画）	① 認知症サポート医の養成、認知症サポート医のフォローアップ研修、病院勤務医療従事者、歯科医師、薬剤師及び看護職員向け認知症対応力向上研修の実施 ② 認知症高齢者に対する介護サービスの充実を図るため、高齢者介護の指導的立場にある者や介護実践者、サービス事業の管理的立場または、代表的立場にある者に対して、必要な知識や技術を修得させる研修を実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	① 認知症サポート医 7人養成 認知症診療医フォローアップ研修 1回開催（60人程度） 一般病院勤務の医療従事者向け研修 2回開催（200人程度） 歯科医師認知症対応力向上研修 2回開催（80人程度） 薬剤師認知症対応力向上研修 2回開催（100人程度） 看護職員認知症対応力向上研修 2回開催（100人程度） ② 認知症介護サービス事業開設者研修 20人 認知症対応型サービス事業管理者研修 100人 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 30人 認知症介護基礎研修 200人 認知症介護指導者フォローアップ研修 2人 認知症介護指導者スキルアップ事業 50人	
アウトプット指標（達成値）	<令和元年度、令和2年度、令和3年度> 事業費未執行のため実績なし <令和4年度>	

	<p>①認知症サポート医 7人養成 認知症診療医フォローアップ研修 1回開催(47人) 一般病院勤務の医療従事者向け研修 2回開催(76人) 歯科医師認知症対応力向上研修 2回開催(31人) 薬剤師認知症対応力向上研修 2回開催(81人) 看護職員認知症対応力向上研修 2回開催(79人)</p> <p>②認知症介護サービス事業開設者研修 4人 認知症対応型サービス事業管理者研修 30人 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 11人 認知症介護基礎研修 490人 認知症介護指導者フォローアップ研修 1人 認知症介護指導者スキルアップ事業 47人</p> <p><令和5年度></p> <p>①認知症サポート医 7人養成 認知症診療医フォローアップ研修 1回開催(59人) 一般病院勤務の医療従事者向け研修 2回開催(71人) 歯科医師認知症対応力向上研修 2回開催(53人) 薬剤師認知症対応力向上研修 2回開催(49人) 看護職員認知症対応力向上研修 2回開催(69人)</p> <p>②認知症介護サービス事業開設者研修 6人 認知症対応型サービス事業管理者研修 30人 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 13人 認知症介護基礎研修 949人 認知症介護指導者フォローアップ研修 1人 認知症介護指導者スキルアップ事業 32人</p>
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 介護職員150人増加の目標に対し年平均551人増加した。 <参考> 認知症サポート医養成 86人</p> <p>(1) 事業の有効性 認知症サポート医を現在の86人に加えて新たに7人養成する等認知症の状況に応じた支援体制の構築や、病院における認知症の方への支援体制を強化することができた。また、高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し、認知症介護の知識・技術に関する研修を実施することで、介護サービスの質を向上させることができた。そのことから、引き続き事業を継続することで、認知症を早期発見・早期対応できる体制を整備し、また、良質な介護を担うことができる人材を質・量ともに確保することが期待できる。</p>

	<p>(2) 事業の効率性</p> <p>サポート医、かかりつけ医、病院勤務の医師・看護師、歯科医師、薬剤師及び看護職員、それぞれに対して必要な研修を行うにあたり関係団体に事業を委託することにより、効率的な研修を実施できる。</p> <p>また、過去に研修実施実績があり、研修実施のノウハウがある団体へ委託することで効率的な実施をすることができる。</p> <p>また、認知症介護サービス事業開設者研修、認知症対応型サービス事業管理者研修及び小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修については、研修の受講要件である認知症介護実践者研修の終了後に、研修を実施することで効果的に実施することができた。</p>
その他	<p><令和元年度> 平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2 年度> 平成 29 年度及び令和 2 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 3 年度> 平成 29 年度、平成 30 年度及び令和 2 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 4 年度～ 5 年度> 平成 29 年度、平成 30 年度、令和元年度及び令和 2 年度積立分を一体的に活用し事業を行った。</p>

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 10】 福祉・介護人材マッチング機能強化事業 (定着促進)	【総事業費】 1,560 千円
事業の対象となる区域	和歌山、那賀、橋本、有田、御坊、田辺、新宮の各区域	
事業の実施主体	和歌山県	
事業の期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日 ■継続 / □終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標:令和 8 年度末における介護職員需給差(395 人)の縮小に向け、介護職員 150 人を増加する。	
事業の内容(当初計画)	福祉事業所の職場環境に関する訪問相談や経営者向けセミナー等を実施 セミナー実施回数 5 回 テーマ案 効果的な求人方法、執務環境改善など	
アウトプット指標(当初の目標値)	経営者セミナー参加者 150 人 (他、研修参加法人の効果測定をアンケートにより実施予定)	
アウトプット指標(達成値)	<令和元年度～令和 5 年度> 事業費未執行のため実績なし	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 事業費未執行のため実績がなく、観察できなかった。 <参考> 令和 5 年度介護サービス従事者数(推測値) 24,641 人(年平均 551 人増加)</p> <p>(1) 事業の有効性 事業所への訪問相談や経営者セミナーにより、介護事業所の職場環境の改善を図り、また、介護人材の離職の防止を図ることで、介護人材の確保につなげることができ、介護職員 150 人増加の目標に対し 551 人増加した。 そのことから引き続き事業を継続することで、より多くの介護人材を確保することが期待できる。</p> <p>(2) 事業の効率性 社会福祉法第 93 条第 1 項に基づき指定している和歌山県福祉人材センターへ委託することで、効率的かつ効果的に事業が実施できた。</p>	

その他	<p><令和元年度> 平成 27 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p> <p><令和 2～5 年度> 平成 29 年度積立分を活用し事業を行ったため、令和元年度積立分は未執行</p>
-----	---